

The Rafaela TIMES

5月号

発行：5月19日（水） 編集：ラファエラ・マリアセンター広報担当

グループ
特集②

すべての人の幸せのために
Seoグループ



センター学生グループ特集、第二弾は「Seoグループ（セオグループ）」。Seoとは、「Support each other. Smile each other.」の略で、ラファエラ・マリアセンターに所属している学生グループだ。日々、さまざまなボランティア活動に励んでいる。

Support & Smile - Seoグループとは

Seoの主な活動は大きく分けて二つある。ひとつは係活動によるボランティアだ。



▲なんみん月間には募金活動も

手入れ、募金の活動など、その活動は多岐に渡る。NPO法人と連携して製作した「大人のコーヒー」は

係活動では各々が興味のある係に所属し、楽しみながら取り組んでいる。例えば、フェアトレード商品を使った清泉カフェとのコラボレーションや、花壇の手入れ、募金の活動など、その活動は多岐に渡る。NPO法人と連携して製作した「大人のコーヒー」は

清泉祭でも販売され、2019年にはしながわみやげに登録された。他



▲集めたエコキャップで本館！

もうひとつは外部から委託されるボランティアへの参加だ。係活動と違うのは、外部と繋がる機会が多いので、OGの力を借りたり、関係者からお

確認してほしい。

話を伺ったりして知識を深めることができる。ボランティアという体験以上の人生経験が積めることも魅力である。

また、Seoには興味のあるボランティアに参加しやすい環境が整っている。無理のない範囲で活動でき、先輩や他学科の友人との情報交換も可能だ。さらに今年度は「#自分でできる」という活動方針を掲げている。行動の仕方が分からない人やきっかけを掴みたい人は、ぜひSeoでやりたいことを見つけてほしい。（地3・片岡）

また、Seoには興味のあるボランティアに参加しやすい環境が整っている。無理のない範囲で活動でき、先輩や他学科の友人との情報交換も可能だ。さらに今年度は「#自分でできる」という活動方針を掲げている。行動の仕方が分からない人やきっかけを掴みたい人は、ぜひSeoでやりたいことを見つけてほしい。（地3・片岡）

Academic Study 勉強会

2月26日（金）に、seoグループ勉強会がオンラインで行われた。これは「現地に行

く事が出来ない今、学びを深める事で動き出す準備ができる」という思いのもと企画された。講師は、ボランティアアラーニングセンター（センターの前身）元センター長で世界YMCA同盟常務委員を務める岡戸良子（おかど・ながこ）さんだ。

今、わたしにできること
My Action Now



▲My Action 考えてみよう

岡戸さんによる勉強会の中で、岡戸さんから問われた「今、私ができること」についてブレイクアウトルームを使って参加者で意見交換をした。会の中で、トリガー（引き金）という言葉



▲優しく語りかける岡戸さん

が話題に上がった。社会に対して疑問に思ったことを引き金として行動しようということである。「友人に触発されてSeoで活動している」、「思いがけない所にトリガーはあるものだ」、「他の参加者に触発されて、自分のトリガーを思い起こした」という参加者の声に、彼女たちの行動力の迅速さに気がされた。何か気になることがある人は、センターを訪れるという簡単な引き金を引いてみるのはどうだろうか。（史3・高橋）

今年度初の大プロジェクト！

東ティモールフェスタ



現在、様々なイベントが中止、またはオンライン開催を余儀なくされている。Seoグループが本学の代表として参加してきた東ティモールフェスタもそのひとつだ。

東ティモールは、2002年に独立したアジアで一番新しい国だ。平均年齢は18歳で、国民の半数以上を若者が占めている。東ティモールフェスタは、日本社会でのオンライン開催される。



▲東ティモール産コーヒーのクッキー完成！

聖心侍女修道会が東ティモールにもあることから、本学は東ティモールとの関わりが深い。Seoグループでも、フェア

トレードで仕入れた東ティモールのコーヒーや紅茶を清泉祭や清泉カフェで販売する活動に日頃から取り組んでいる。



今回は、Seoグループの3年生を中心に、「清泉女子大学と東ティモールの食の繋がりに」というキーワードのもと、取材や調査を重ね、企画実現に向けて動いている。今年度初の大きなプロジェクトとして、必ず成功させたい。
(地3・片岡)

学生スタッフにインタビュー Seoグループ新旧共同代表編

質問内容

- ①加入時期ときっかけ
- ②係や参加した行事
- ③加入してよかったこと
- ④印象に残っていること
- ⑤読者にメッセージ

想いをかたちにできる場所

富樫多恵さん

(文化史4年・前代表)



大船渡でのボランティア

①1年春に加入。被災地支援をしているグループが気になりセンターに行きました。②1年から継続して

いるのはエコキャップ係。大船渡にも行き、パネル展示や発展協力会への活動報告にも携わりました。③たくさんあります、心地よい居場所です、自分の力を発揮できたことです。また、学外のひととの関わりで新しい世界を知れました。④2年から大船渡により力を入れるようになり、今年3月にはオンラインイベントを開催しました。イベントを作り上げる大変さと、職員さんと大船渡の方の支えを実感し、好きな方向に走っていける素晴らしさを感じました。Seoでの集大成です。⑤センターには素敵

自分の偏見に気づかされた

片岡真渚さん

(地民3年・新代表)



①1年の夏休みに加入。夏休みを無駄にしなくなくて、単発のつもりで参加した聖フランシスコ子寮のボランティアがきっかけです。②フェアトレードと

な職員さんや様々なことに興味を持つ学生がいます。「叩けよ、さらば開かれん」(マタイ7:7)の通り、センターは想いをかたちにできる場所です。③他学科の人と仲良くなれたこと。Seoに入らないと出会えなかった人に出会えたのがよかったです。④子供寮ボランティアが人生の転機になりました。児童養護施設や子供たちにポジティブなイメージがなかったのですが、明るい子供たちや本当の親のように接するスタッフの姿を見て、自分の偏見に気づかされました。⑤新しいことをしたくなったら、始めたいけど何がいいのか迷ったらセンターに来てみてください。私たちがお手伝いします。友達を増やしたい人もぜひ！